



12歳以下の子どもを持つ子育て中の男女800人に聞く、育児パパのお料理調査

妻が夫につくって欲しい料理は、手軽にパッとつくれる「簡単料理」

イクメンの7割は主食も主菜も副菜も 冷凍食品を上手に活用

“イクメン三種の神器”は
「電子レンジ」「インスタント食品」「冷凍食品」

育児パパの苦手な家事・育児の第1位は「料理」
でも、イクメンは冷凍食品を上手に活用し積極的に料理参加

時間をかけずにパッとつくるイクメンクッキング
主食も主菜も副菜も、イクメンの7割は冷凍食品を上手に活用

育児ママの90.8%はイクメンの冷凍食品料理を歓迎
冷凍食品の上手な活用で積極的な料理参加を期待

意外とスゴイ、冷凍食品
8割以上が“細菌の繁殖を抑える”“おいしさを保てる”冷凍食品に「魅力を感じる」

本件に関するお問い合わせ先

「育児パパのお料理調査」事務局(電通パブリックリレーションズ内)
担当: 木下
TEL.03-5565-2726 FAX.03-3546-2017



〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町10-6 桂屋第二ビル

「子育て中の男女800人に聞く 育児パパのお料理調査」調査概要



厚生労働省の調査によると、男性の約3割が育児休暇を取得したいと希望しているにもかかわらず、実際の取得率は1.72%にとどまっており、日本の男性が家事・育児をする時間は、他の先進国と比べて最低水準となっています。

確かに育児をとる男性会社員は希少な存在であり、本格的な育児パパの登場はもう少し先のことになりそうです。とはいうものの、長期的な育児は取れないができる範囲で育児に参加したい、育児に伴う妻の負担をサポートしたいと思う男性は決して少なくありません。家事や育児を楽しむ(楽しみたい)男性が「イクメン」と命名され、企業や自治体がイクメン環境の充実に乗り出し、子育て中のお父さん(育児パパ)たちも、イクメンを目指し、家事・育児に参加し始めているようです。

社団法人日本冷凍食品協会では、子育て期の家庭におけるイクメンと非イクメン、そして妻たちを対象に、料理を含む家事・育児に関するアンケート調査を行いました。その意識と実態をご紹介します。

◎実施時期	2010年9月28日(火)～9月30日(木)
◎調査手法	インターネット調査
◎調査対象	全国の12歳以下の子ども(第一子)を持つ父親・母親各400名 合計800名

調査結果のまとめ

■育児パパの実状・・・育児や料理をしたくても時間がナイ！

育児パパで、家事・育児に参加している「イクメン」と見られるのは約8割(78.5%)にも上りますが、妻に夫の家事・育児の参加度合いを聞くと、71.8%と10ポイント近くダウンする結果となり、夫の家事・育児の参加意識に男女間で格差があります。夫が実践する家事・育児は、「子どもと一緒に遊ぶ」「子どもと一緒にお風呂に入る」「授業参観や運動会などのイベントに参加する」が上位で、「料理」に関してはイクメン37.9%、非イクメンではわずか4.6%しか実践していません。

妻に夫の料理参加度を聞くと、イクメン43.2点、非イクメン13.9点と低い評価となっています。育児パパが手間だと感じる家事・育児のトップは「料理」で、その理由は「仕事が忙しくて時間が少ないから」が1位です。料理も手伝いたいという意向はあるものの時間が少ない、というのが育児パパのジレンマのようです。

■育児参加のコツは時間の有効活用

料理が苦手な育児パパが多いですが、妻が夫にしてもらいたい家事・育児は「子どもと一緒に遊ぶ」に次いで「料理」となっています。それも「手の込んだ本格的な料理」ではなく、「簡単にパッとつくれる料理」がいちばん望まれており、夫も妻につくってあげたい料理は「簡単にパッとつくれる料理」と答えています。

時間がなかなかとれないイクメンが、効率的に料理をつくる“イクメンクッキング”のお助けアイテムとして利用しているのは、「電子レンジ」「インスタント食品」「冷凍食品」の3点セット。料理における“イクメン三種の神器”となっています。

冷凍食品を使った料理は、イクメンが7割(71.0%)、非イクメンでも6割(60.5%)が実践しており、「惣菜・フライ類」を筆頭に「麺類」「冷凍野菜・果物類」「魚介類」「米飯類」など、さまざまな冷凍食品を利用しています。冷凍食品を利用する理由は、やはり「料理時間の短縮になるから」がトップで、今後の利用意向も、イクメンが86.0%、非イクメンでも76.8%と非常に高くなっています。また、妻の9割(90.8%)が、冷凍食品を使うことで夫が料理に積極的に参加することを歓迎しており、冷凍食品は、育児パパが妻も認めるイクメンとなるための頼れるパートナーとなるようです。

■「意外とスゴイ、冷凍食品」は育児パパにも魅力的

最後に、冷凍食品の特徴の認知度・魅力度を聞いたところ、「つくりたてのおいしさや品質・栄養を守る」ことに関しては認知度も魅力度も高い結果となりましたが、保存温度が-18℃以下だからできる「1年間は品質が保たれる」ことや「細菌が繁殖せず衛生的」なことについては、魅力的と感じるもののその認知度は低めで、「あえて意識もせず自然のよう便利に使っていた」ということのようにです。

育児パパのみなさんには、「意外とスゴイ、冷凍食品」を上手に活用いただき、ママに一目置かれる真のイクメンを目指していただきたいものです。

いまどきの育児パパの8割が家事や育児に参加する“イクメン”です！

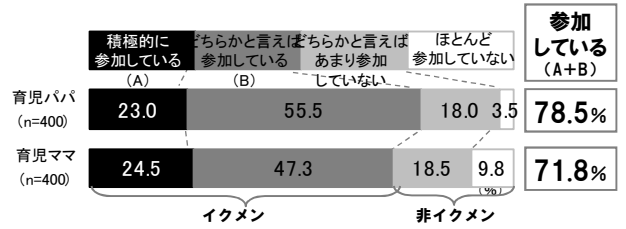
イベントごとは大得意、でも「料理」となるとちょっと苦手かも？ パパの家事・育児に対してママの評価はまだまだ辛口。

12歳以下の子どもを持つ育児パパに家事・育児への参加について聞くと、78.5%が「参加している」と回答しています。

※本調査では、「積極的に参加している」「どちらかと言えば参加している」と回答した男性を「イクメン」と定義

しかし、妻に聞くと夫の参加は71.8%と夫の自己申告よりやや低くなり、夫の家事・育児の参加に対し妻はやや厳しい見方をしていることがわかります[グラフ1]。

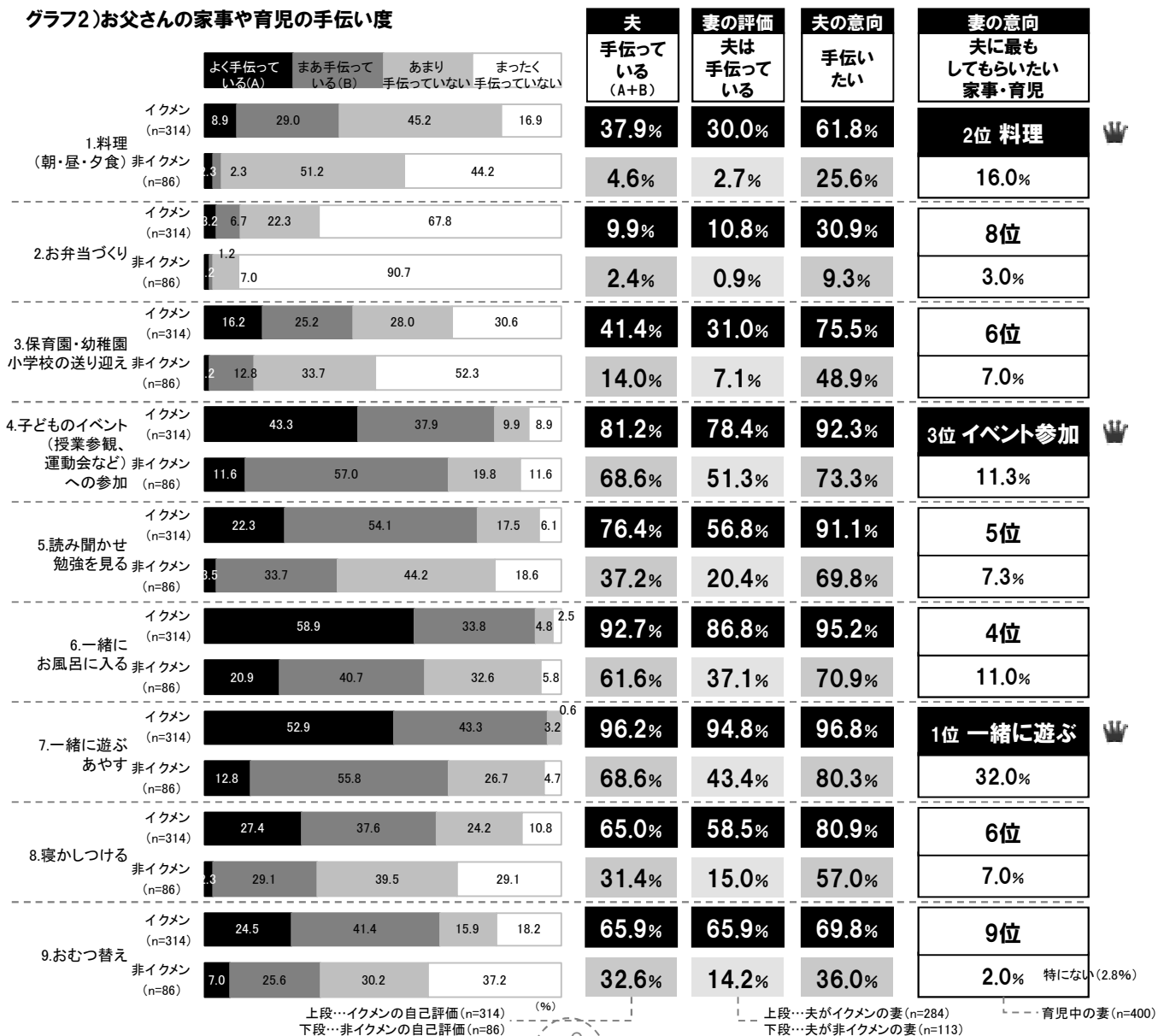
グラフ1)お父さんの家事・育児への参加



ここでは、イクメンと非イクメンの家事や育児に関する違いや妻の評価について調べてみます。夫に家事・育児の手伝い度を聞くと、9項目すべてにおいてイクメンの方が参加率が高くなっていますが、「料理」はイクメンでも参加率が低く、育児パパにとって料理はひとつのハードルとなっているようです。しかし、育児パパの料理を「手伝いたい」(イクメン61.8%)という意向は強く、また、妻にとっても夫にやってもらえたら最もうれしい家事のひとつが「料理」(16.0%)です[グラフ2]。

夫の家事・育児の評価に厳しい妻ですが、夫の料理は妻の評価を甘口にする効果が期待できそうです。

グラフ2)お父さんの家事や育児の手伝い度





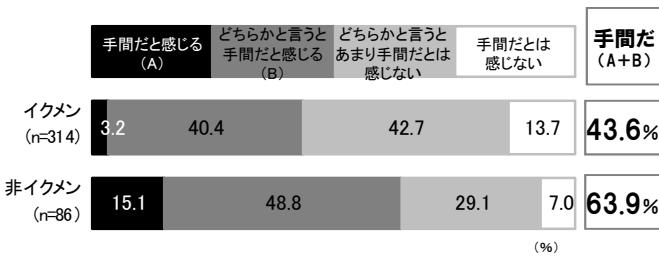
ホンは手間だと感じる家事・育児。仕事で時間がないから「料理」は敬遠 でも、育児ママがパパにしてもらっていちばんうれしいのは、「子どもと遊んで」くれることと「料理」をつくってくれること

家事・育児への参加意欲を示すいまどきの育児パパ。しかしその本音を聞くと、イクメンで43.6%、非イクメンでは63.9%が家事・育児を「手間だ」と感じています[グラフ3]。手間だと感じる家事・育児は、手伝い度の低かった「料理」(p2参照)がトップで、イクメンは44.5%、非イクメンでは61.8%が料理を手間だと感じています[グラフ4]。

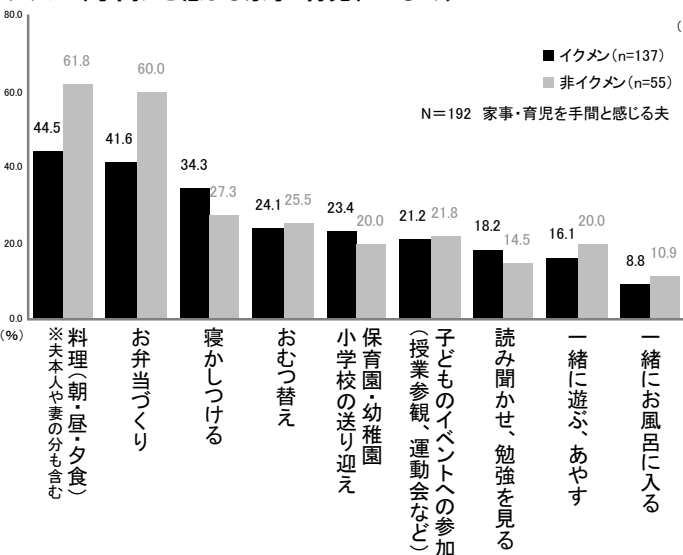
家事・育児を手間だと感じる理由は「仕事が忙しくて時間がないから」がトップ[グラフ5]で、その原因が改善されたら家事・育児を「手伝いたい」育児パパは多数派で、イクメンでは76.6%、非イクメンでも54.4%が家事・育児を手伝いたいと回答しています[グラフ6]。あまり時間のかからない料理ができるようになれば、育児パパの家事・育児への参加ももっと増えそうです。

夫にやってもらえたら最もうれしい家事のひとつが「料理」(p2参照)でしたが、過去に夫にしてもらって最もうれしかった家事・育児も、「子どもと一緒に遊ぶ・あやす」(35.0%)が最も高く、「料理」(11.5%)が第2位となっています[図7]。

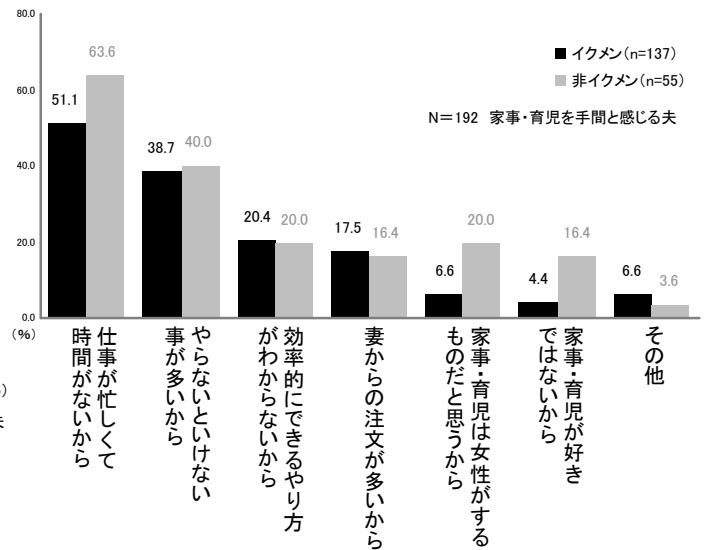
グラフ3)家事や育児を手間と感じるか



グラフ4)手間だと感じる家事・育児(3つまで)



グラフ5)手間だと感じる理由(複数回答)



グラフ6)時間の原因が改善されたら

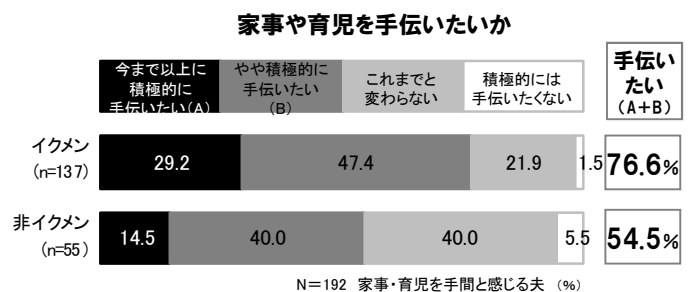
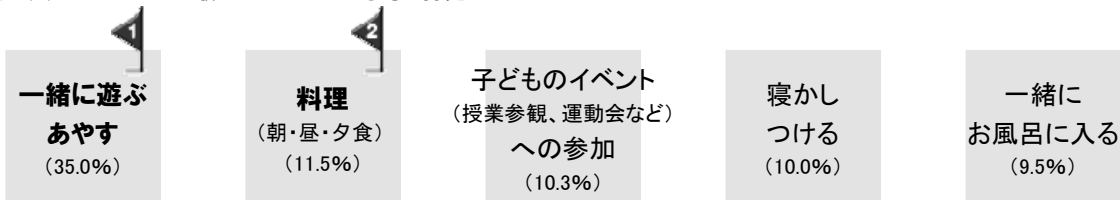


図7)過去に夫にしてもらって最もうれしかった家事・育児TOP5



N=400 育児中の妻

育児パパがつくってあげたいのは「簡単にパッとつくれる料理」 ママもうれしい♪

パパの料理に落第点をつける辛口ママも、パパがつくってくれる簡単お手軽料理には♥ 本格的な料理は人気薄

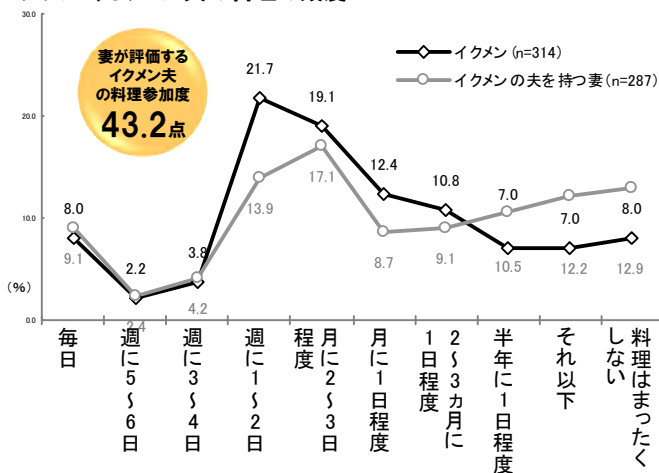
料理に苦手意識を持つ育児パパですが、実際には料理への参加はどのようになっているのでしょうか。

イクメンの場合、料理の頻度は「週に1~2日」(21.7%)が最も多くなっていますが、妻からみると「月に2~3日」(17.1%)程度で、非イクメンの場合は「2~3カ月に1日程度」(22.1%)とその頻度はさらに低くなり、妻からみた非イクメンは「料理はまったくしない」(34.5%)と評価されているようです。妻に夫の料理参加度に点数をつけてもらうと、イクメンは43.2点ですが、非イクメンは13.9点[グラフ8.9]と落第点のようです。

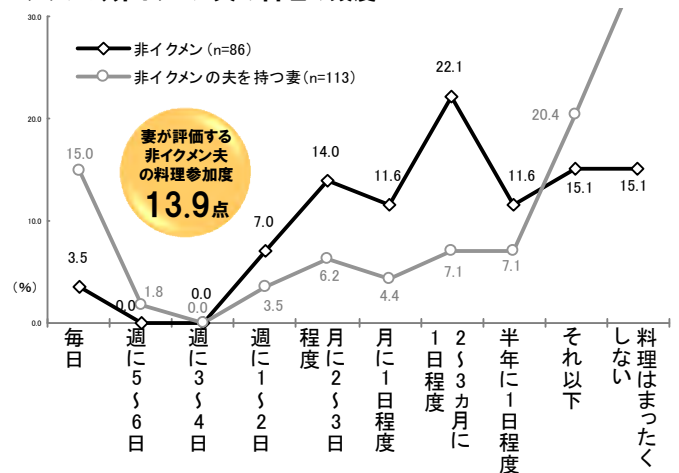
また、育児パパが料理をつくるときに重視するのは、1位「味」、2位「時間(すぐにできる)」[グラフ10]が8~9割と極めて高くなっています。

妻につくってあげたい料理は「冷蔵庫にあるものなどで簡単にパッとつくれる料理」が1位で、妻も夫につくって欲しいのは本格的な料理ではなく、「冷蔵庫にあるものなどで簡単にパッとつくれる料理」(41.8%)となり両者のニーズが一致[グラフ11]。イクメン(53.8%)と非イクメン(48.5%)ではほとんど差がなく、育児パパの妻の気持ちへの配慮は共通のようです。

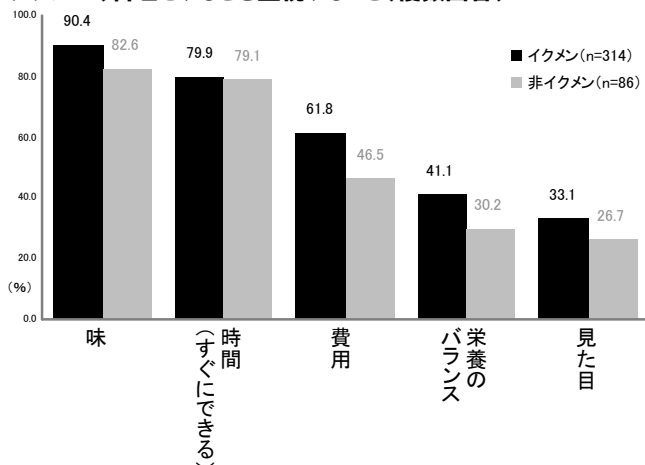
グラフ8)イクメン夫の料理の頻度



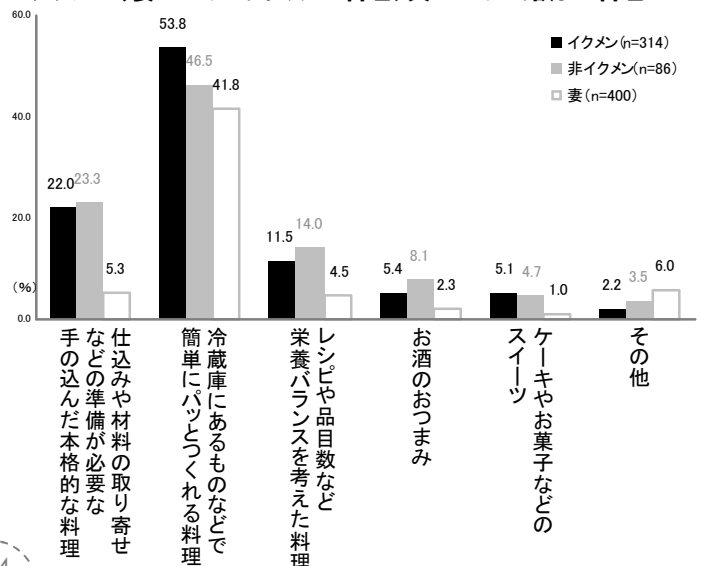
グラフ9)非イクメン夫の料理の頻度



グラフ10)料理をするとき重視すること(複数回答)



グラフ11)妻につくってあげたい料理、夫につくって欲しい料理



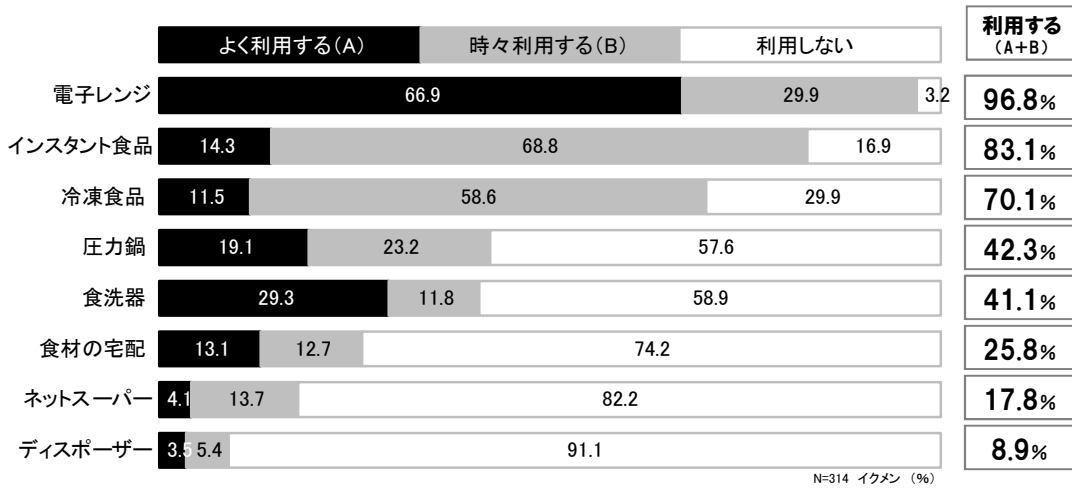
「電子レンジ」「インスタント食品」「冷凍食品」イクメンクッキングの三種の神器
 今後も利用したいのは「電子レンジ」「冷凍食品」「インスタント食品」の順となり、冷凍食品の利用意向up!!

料理は苦手でも簡単なお手軽料理を妻につくってあげたいイクメンは、効率的に料理をつくるためにどんなワザを使っているのでしょうか。

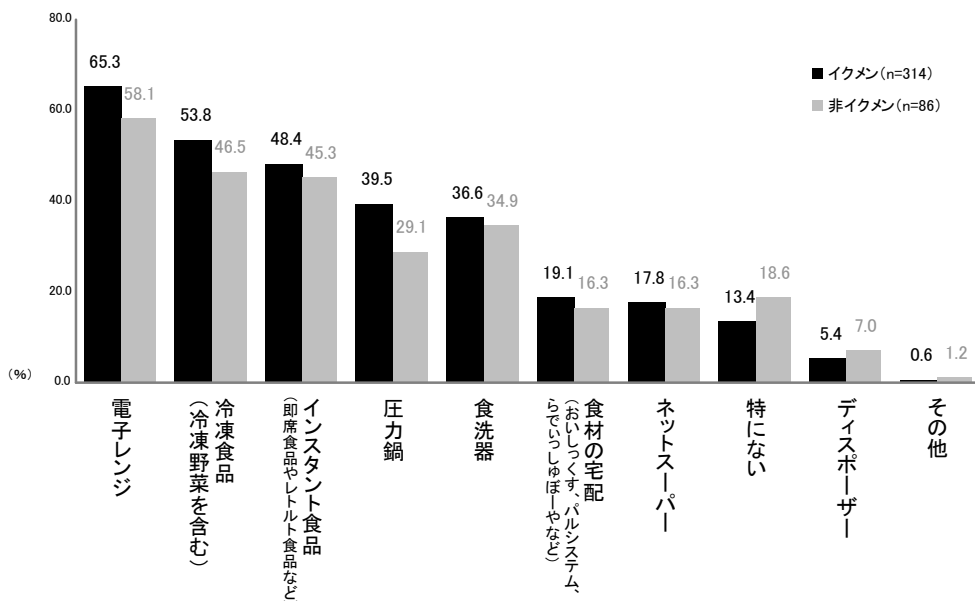
彼らがよく利用する料理アイテムは、1位「電子レンジ」(96.8%)、2位「インスタント食品」(83.1%)、3位「冷凍食品」(70.1%) [グラフ12]となっており、この3つが時間をかけない効率的なイクメンクッキングの、お助けアイテム“三種の神器”となっています。

また、料理の効率化のために今後も使いたい料理アイテムを聞くと、1位「電子レンジ」(65.3%)、2位「冷凍食品」(53.8%)、3位「インスタント食品」(48.4%) [グラフ13]となり、冷凍食品の利用意向がさらに強くなっていることがわかります。

グラフ12)料理を効率化するために利用するもの



グラフ13)料理を効率化するために、今後も利用したいもの(複数回答)



冷凍食品 イクメンの7割が活用し、育児ママの6割は「週1以上」活用中

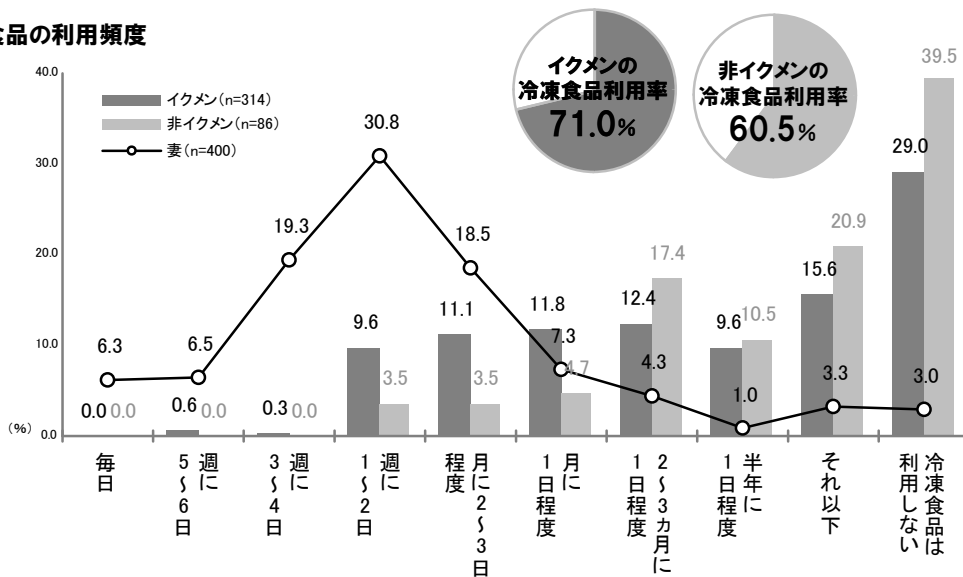
育児パパ御用達冷食は「惣菜・フライ」「麺類」「冷凍野菜・果物類」 主食も主菜も副菜も

利用意向がさらに強まる冷凍食品ですが、育児パパは冷凍食品をどのように活用しているのでしょうか。

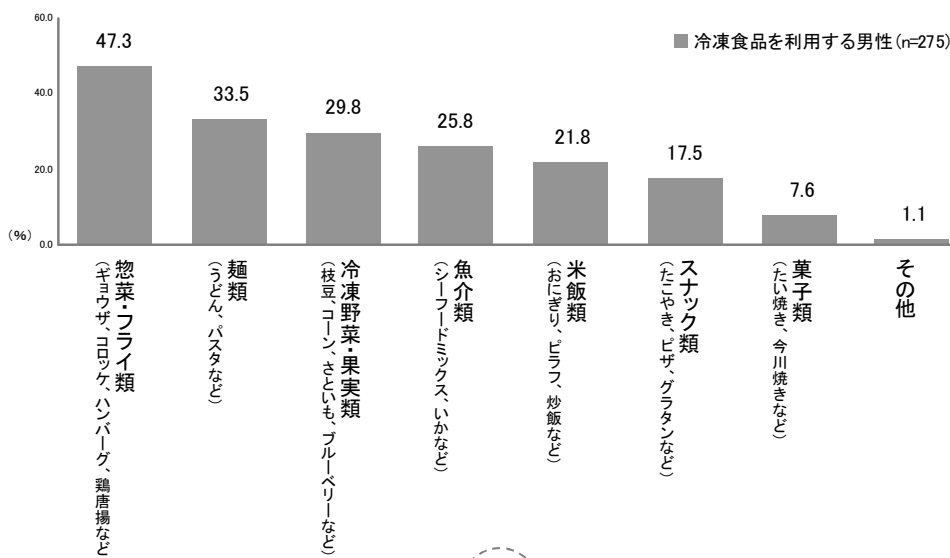
イクメンの71.0%、非イクメンの60.5%が冷凍食品を利用しており、育児に積極的なイクメンの方が利用意向が強くなっています。一見利用頻度はそれほど高くないようですが、料理頻度の低さ(p4参照)を考えれば、かなり利用していると言えます。ちなみに、子育て中のママの冷凍食品の利用頻度は「週に1~2日」(30.8%)が最も多く、「毎日」(6.3%) 使うママも。全体の6割以上が「週1日以上」(62.9%) [グラフ14] 冷凍食品を活用しています。

育児パパがよく使う冷凍食品のTOP3は、1位「惣菜・フライ類(ギョウザ、コロッセ、ハンバーグ、鶏唐揚げなど)」(47.3%)、2位「麺類(うどん、パスタなど)」(33.5%)、3位「冷凍野菜・果実類(枝豆、コーン、さといも、ブルーベリーなど)」(29.8%) [グラフ15] となっており、冷凍食品は夕食のおかずや主食として、食事全般に利用されているようです。

グラフ14) 冷凍食品の利用頻度



グラフ15) よく使う冷凍食品



冷凍食品は「料理時間が短縮」でき、「すぐ食べられて」「価格も安い」

パパの育児・料理参加をサポートする冷凍食品。ママたちも育児パパの冷食活用に大賛成！

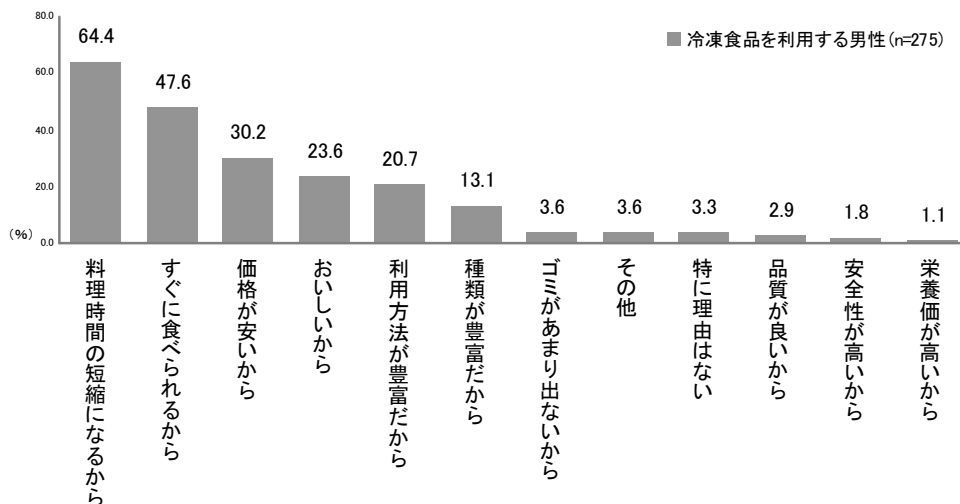
主食に主菜に副菜にと、冷凍食品は育児パパの料理に幅広く使われています。

冷凍食品を使う理由を聞いてみると、「料理時間の短縮になるから」(64.4%)が第1位で、次いで「すぐに食べられるから」(47.6%)、「価格が安いから」(30.2%)の順[グラフ16]です。

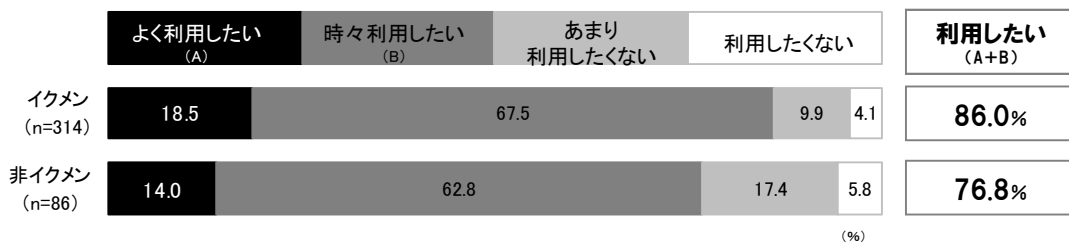
仕事が忙しくて家事・育児に参加したくてもできなかった育児パパたちも、料理時間の短縮につながる冷凍食品をうまく使うことで、やりたくてもできないというジレンマから解放されるかもしれません。

今後、冷凍食品を利用したい人は、イクメンが86.0%、非イクメンでも76.8%[グラフ17]と高く、妻たちも冷凍食品を使うことで夫が料理に参加するのは「よいことだと思う」(90.8%) [グラフ18]と9割が歓迎しています。

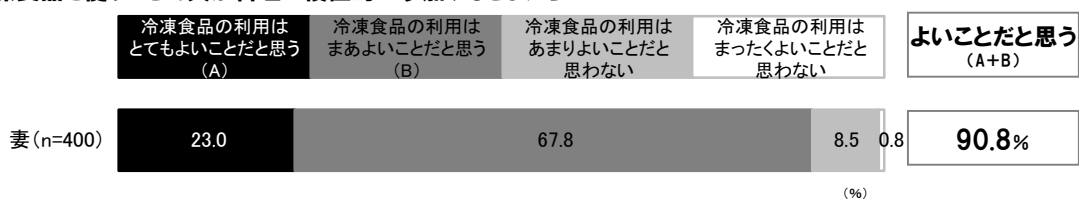
グラフ16)冷凍食品を利用する理由



グラフ17)冷凍食品の利用意向



グラフ18)冷凍食品を使うことで夫が料理に積極的に参加するとしたら…



知ってそうで知らない冷凍食品、知れば知るほど魅力的

-18℃以下って意外とスゴイ！ 品質も栄養も衛生面もガッチリガード。「認定証」マークは信頼の目印です

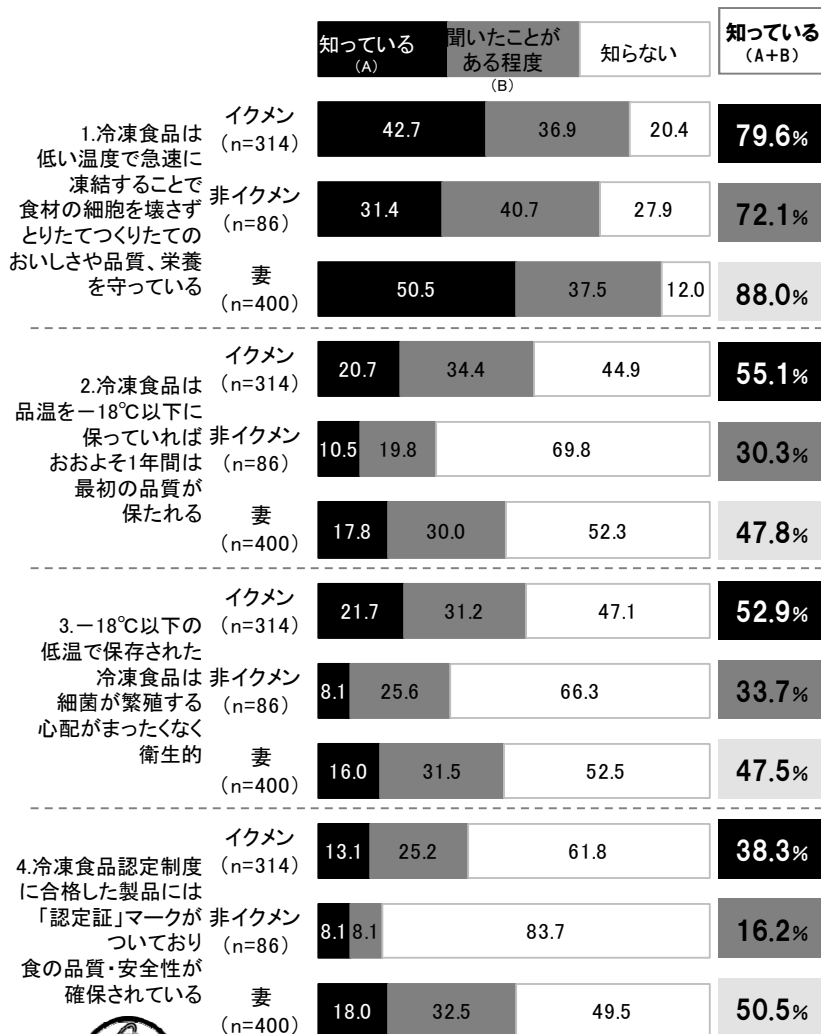
育児世代のパパ・ママにとってなくてはならないお助けアイテムの冷凍食品ですが、どれくらい正しく認知されているのでしょうか。冷凍食品の4つの特徴について、認知度と魅力度を聞いてみました。

「冷凍食品は低い温度で急速に凍結することで食材の細胞を壊さずとりたてつくりたてのおいしさや品質、栄養を守っている」に関しては、イクメンも非イクメンもママもおおよそ認知しており、魅力的と回答しています。

しかし、「冷凍食品は品温を-18℃以下に保っていればおおよそ1年間は最初の品質が保たれる」、「-18℃以下の低温で保存された冷凍食品は細菌が繁殖する心配がまったくなく衛生的」、「冷凍食品認定制度に合格した製品には『認定証』マークがついており食の品質・安全性が確保されている」の3項目については、魅力度は高いものの認知度は低く、特に認定証マークの認知度はママが5割(50.5%)を超えているだけで、イクメンで4割弱(38.2%)、非イクメンでは16.3%の低い結果となりました[グラフ19.20]。

1960年代ころから普及し始め、今やすっかり定着した日本の冷凍食品。安全性も利便性もおいしさもそろった身近な存在だけに、その特徴を改めて意識することがないのかもしれませんが、「意外とスゴイ、冷凍食品」を再認識することで、豊かな食生活を送るキッカケになるかもしれません。

グラフ19)冷凍食品の特徴認知度



グラフ20)冷凍食品の特徴の魅力度

